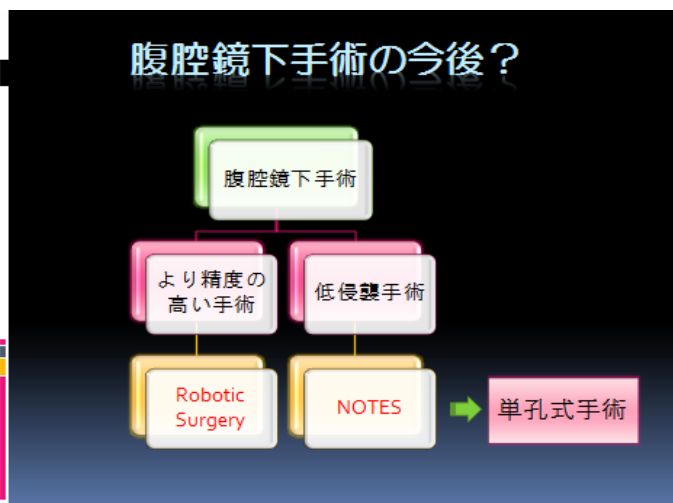


平成 23 年 4 月 28 日 (木曜日) 19:45~20:30

◆ミニレクチャー テーマ 「当科における単孔式腹腔鏡下大腸癌手術」

講師 外科医長 平能 康充 先生



NOTES とは?

- Natural Orifice Transluminal Endoscopic Surgery
- 体表面に創を作らない夢の低侵襲手術として近年注目を集めている。
- 体表を切開し、体腔内へ到達する従来の外科手術とは異なり、軟性内視鏡を用いて口や肛門から消化管経路で、あるいは臍や膀胱などを経由し腹腔内へと到達する。
- 腹腔内観察、肝生検などの診断的技法から虫垂切除、胆嚢摘出、卵管結紮、卵巣摘出、胃小腸吻合など多様な技法への応用の可能性が報告されている。

日本での臨床応用 19例

腹腔内観察	12例
胆嚢摘出	2例
胃局所切除	5例

1~2本の補助トロッカーを使用

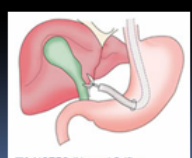


図1 NOTES (Natural Orifice Transluminal Endoscopic Surgery)



結語

- 大腸癌に対する単孔式腹腔鏡下手術31例を経験した。
- 本術式は安全に施行可能で整容性にも優れていた。
- 鉗子の干渉や視野展開の制限などの技術的な問題点も存在するが、通常の腹腔鏡下大腸切除からさらに低侵襲化を進める上で有用なオプションとなりうると思われた。

腹腔鏡手術の新しい展開についての講演でした。今では広く普及している腹腔鏡下手術ですが、より精度の求める Robotic Surgery、低侵襲性を求める NOTES (Natural Orifice Transluminal Endoscopic Surgery) の間にある方法と言え、当院でも 2010 年 8 月から導入されている単孔式腹腔鏡下手術を中心に講演していただきました。

司会の外科・服部先生からの“昔は外科医は臍を切るなど教えられましたが、今では臍だけを切るという時代になりました”との締めくくりが印象的でした。 [文責：放射線科主任医長 吉川]